

東京都立
大泉高等学校
附属中学校
玉腰朱里先生の
取り組み

中3

SDGs×道徳 授業実践編



国際理解・寛容をテーマに4時間

～僕にできることはまだあるかい～

アニメ映画の主題歌のキャッチーな歌詞「僕にできることはまだあるかい」をサブテーマに、国際協力を自分の問題として考える授業。

●第1時は国際協力の必要性を検討。日本が外国に助けられていた時代を振り返れば、国際協力がお互い様であることが理解できる。

●第2時は「貿易ゲーム」。6か国を模したチームに分かれ、各国の利潤を追求する。資源を輸出入したり外国人労働者を雇ったりと、生徒は知恵をしぼって競争するが、世界全体が豊かになるためにはどうすれば良かったかを問いかけると、「すべての国が手を取り合うこと」という答えに自ずとどり着く。日本が外国に助けられていた時代を振り返り、今後も日本が他国から援助される可能性を考えれば、国際協力は相互の助け合いだと理解できる。

●第3時では、寛容性とアイデンティティについて考える。世界から争いをなくすことはできるのか？ 独裁政権を題材にした漫画や虐殺の話も教材に用いる。

●第4時では、ワークシート「愛にできることはまだあるよ」を用い、パラグアイに住む人のインタビューを集め。SDGs17のゴールのどれに関連しているか。自分にできることは何だろうか。生徒が自ら考えを深めてしめくくる。

④第4時で使用するインタビュー記事。



⑤インタビューは8種類。他のクラスの人に「エイシャバ（パラグアイ語のこんにちは）」と声をかけ、全種類集める。



⑥生徒のワークシートと日記。国際協力はたやすいことではないと気付きながらも、生徒が自分にできることを考え始めていることが読み取れる。

◆発達の段階に配慮しながら題材を工夫した授業

SDGsを授業にどのように取り入れたらよいのか、発達段階に応じた、道徳授業とのコラボの例を紹介します。

北海道石狩市立
南線小学校
宮浦匡典先生の
取り組み

小2

「15 陸の豊かさも守ろう」に関連

動物園のゾウを通して自然愛護を考える

SDGsを小学校低学年で理解するのはなかなか困難。しかしSDGsを掲げなくても、工夫次第で意義深い授業を展開できる。

●導入は、社会見学で訪れた動物園で見たアジアゾウ。児童は園長の話から、ゾウがはるばるミャンマーからやってきたことを知る。

●次は、ゾウ使いの少年アウン君の語り。ミャンマーでは、彼らが生活を共にしているゾウの数が減っているという。

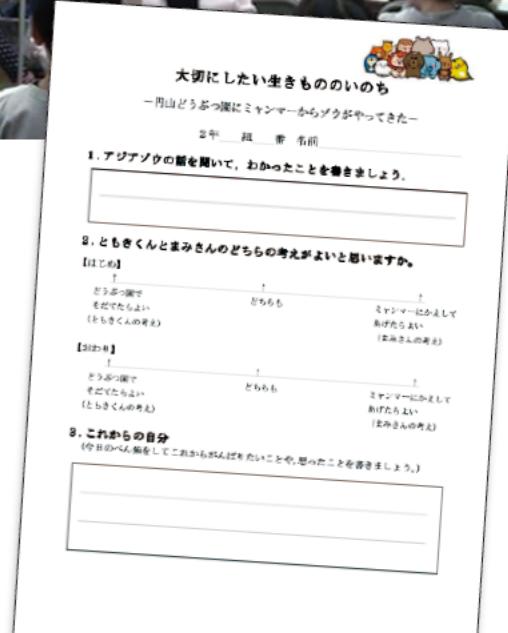
●そこでゾウを、「動物園で大切に育てた方がよい」のか「ミャンマーに返した方がよい」のか、2つの考え方を提示し、児童が意見を述べ合う展開に。

●児童はゾウの立場から発想し、飼育しているペットを大切にする、困っている動物は助けたい、などと考えを発展させた。

●ミャンマーを知り、日本とのつながりにも触れられたことで、国際理解についても学ぶことができた。



①「せっかく来たのだから動物園で大切に育てたらいいよ。」「数が減っているので、のびのび暮らせるミャンマーに返してあげたらいいよ。」2つの考えに、児童も思索を巡らす。



②児童が自分の考えをまとめるワークシート。どちらの意見にも共感する部分があるということは、命の尊さについて考えられた結果といえる。



③意見が活発に出て、授業はスピーディに展開する。



キャリア教育の視点から「学びに向かう力」を育成

大阪府枚方市立 招提北中学校

「子どもを主体にした学校づくり」*

自分らしく、よりよく生きるには、「学びに向かう力」が将来にわたって必要となる。この力を育成するために、キャリア教育の視点を意識しながら、学校教育活動全体にわたり、生徒・教職員が協働で取り組んでいる。

「学びの主体は生徒自身であり、仲間とともに、わからないうことをわかるようにしていくところが学校だ」。教職員はそうした「待ち」の姿勢で、生徒の成長を見守りサポートする。「待つ」ことで、生徒自身が「何のために学ぶのか」と目的意識をもち、学ぶ意欲を高め、当事者意識をもって「学び」に向かっていく。

日々の小さな一つ一つの積み重ねが、「自分らしい生き方」を実現していく力となり、自分の未来を創り出す「生きる力」を育成する。そう信じてすべての学校教育活動を行うことが、「キャリア教育」の充実につながっている。



①各学年の教室前には、新聞が置かれ生徒たちが自由に読めるようになっている。



②生徒たちは日々の活動の記録をはがき新聞にまとめている。

キャリア教育とは？

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てるを通じて、キャリア発達を促す教育。

(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」(平成23年1月31日)

「キャリア発達」とは？

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程。



③掲示されたはがき新聞。

●生徒を尊敬します！

教師側が生徒の力を信用・信頼していくことで、生徒自身が主体的に「学び」に向かうようになったと思います。生徒たちの成長する姿はすごい！「尊敬」の域まで達しました！

山本校長先生より



キャリア教育の視点を意識した取り組み（「総合的な学習の時間」の場合）「自己創生～自己の生き方を創り出す～」

1年生 気づく

自分の身の回りや社会における、さまざまな課題について調べ、気づいていく。

- 「社会の課題」に気づく（高齢者との交流）
- 「様々な人々の思い」に気づく（コリアタウンでのフィールドワーク）
- 「はたらく人々の思い」に気づく（職業講話）

隣接する介護老人ホームで2回の交流。自分たちで交流内容を企画することの大変さを実感。相手を十分に理解することの大切さを学んだ。



2年生 つなげる

さまざまな活動、経験を通して、自分と社会、自分の将来につなげていく。

- 「環境と自分」をつなげる（淡路島での漁業体験）
- 「社会と自分」をつなげる（職場体験学習）
- 「将来の自分」とつなげる（ドリームマップの制作）

自分で3日間の体験場所を開拓。断られてもめげずに自分のやりたい「しごと」を決めていく。だから“自分の事”として、主体性をもって取り組める。



3年生 創り出す

自己を見つめ、社会や将来とのつながりを考え、自己の生き方を創り出していく。

- 「地域の魅力、社会」を創り出す（長野ウォーカーの制作）
- 「自分の生き方」を創り出す（SDGs・アクションプランの実施）
- 「新たな自分」を創り出す（「SDGsサミット」の企画・運営）

多くのゲストを招いて、SDGsの実践発表・交流会。「今、自分たちでできること」を話し合う。

